



# 宮前ガバナンス

## 石田やすひろ・川崎市政報告



宮前区の消防出初式の様子。自助・共助・公助による防災対策が求められます。

平成24年度の予算規模は、一般会計、特別会計及び企業会計を合わせた合計で、1兆2346億7500万円（前年度比6.8%の減）となりました。そのうち、一般会計予算は5956億3226万円で、前年に比べて3.6%の減少です。

### 平成24年度予算案が示され 予算審査特別委員会で審議



川崎市議会本会議場にて質問をする石田議員（平成二十四年三月五日）

策などの予算含まれています。その内訳は、「東日本大震災の被災者支援・被災地復興支援」として1億3158万6千円が計上されました。新たな災害に備えるための予算として136億881万3000円が計上されています。そのうち、民間建築物の耐震化の促進として4億4468万3000円が計上されています。予算審査特別委員会での質疑は、裏面にて掲載しました。

### 石田やすひろプロフィール

川崎市立犬蔵中学校卒業、明治大学公共政策大学院修士、国会議員の秘書を経て、28歳の若さで初当選。現在4期目。議会では、健康福祉委員長、市民委員長を歴任し、子育て支援策の強化や区役所機能の強化を推進する。その他、政策を議会で提案し多数実現をしている。議会発言後は、必ず駅頭や広報紙を作成しその内容を積極的に市政報告を実施。

### 石田康博事務所

〒216-0035  
住所 川崎市宮前区馬絹531-2

TEL 044-861-6870  
FAX 044-854-0798



### ホームページ公開中

市民意見・政治に関するご意見は

「石田やすひろ公式ホームページ」から！

ブログ連日、更新中



<http://www.ishidayasuhiro.com>

# 予算審査特別委員会で、宮前区 梶ヶ谷金山地区の浸水対策を質疑

平成24年度 予算審査特別委員会において、3つの市政課題について質疑しました。1つは、「宮前区梶ヶ谷金山地区の浸水対策について」2つには「宮前いきいきセンター及び、憩いの家の設置について」3つには「川崎市ふるさと応援寄附金」についてです。

梶ヶ谷金山地区の20ヘクタールの地域内にかかわる浸水対策について質問し、早急な対策を求めました。

昨今、地球温暖化やヒートアイランド現象などの環境変化により、局地的な集中豪雨が発生しています。加えて、大規模な宅地開発による土壌の保水力も低下し、雨水の急激な流れを助長する結果となっています。ゲリラ豪雨の発生は予測が難しく、被害を防ぐための地域による自主防衛などには限界があり、苦慮している状況にあります。

宮前区では、低地域の浸水常襲地区が点在しており、河川や下水道といった、一層の整備が求められています。当該地域は、下水道基本計画による5年に1度の豪雨に耐えうる、時間52ミリに対応した雨水の整備がなされています。しかし、度重なるゲリラ豪雨により冠水被害を起こしており、対策を求める声が地域から出ています。



梶ヶ谷にある雨水が集中する交差点

危機管理室のデータによると、調査を始めた平成21年以降、梶ヶ谷金山地区に近い、野川観測地点の「10分雨量13ミリ以上」の観測は、平成21年8月24日に14ミリ、平成22年9月14日に18ミリ、平成22年12月3日に15ミリ、平成23年8月26日に17ミリ、16ミリ、17ミリと続き、合計6回に及ぶゲリラ豪雨の発生を記録しています。

神奈川県の対策では、矢上川流域における「鶴見川系河川整備計画」を策定し、総合治水対策を実施しています。ここでは平成23年度から、10年に1回発生する規模の時間約60ミリの降雨に対処するため、洪水調節施設の建設をスタートさせています。矢上川流域に位置する梶ヶ谷金



ました。

上下水道管理者の答弁では、梶ヶ谷金山公園に隣接する市道宮前5号線の北側斜面に位置し、約30メートルの高低差がある地形となっており、集中豪雨時などに、雨水が路面場を流れ、第3梶ヶ谷架道橋付近の地盤の低い箇所集中し、道路冠水がたびたび発生している状況です。

こうした地形的状況を勘案し、これまでに宮前区役所道路公園センターにおいて、雨水を円滑に排除するための対策を行ってきました。また、上下水道局として、この地区の既存排水施設の流下能力などを確認するため、流域調査を進めているところであると答弁がありました。

次に、その調査結果と今後の対応について訊ねました。上下水道管理者の答弁では、今年度、実施している当該地区の流域調査において、地盤高低差および既存道路側溝や水路の形状、勾配、流下方向などの詳細な調査を進めた結果、市道梶ヶ谷宮15号線の既存道路の側溝の一部に能力が不足していることなどが確認されています。

今後の対応については、これらの調査結果を踏まえて、関係部局と調整を行い、来年度末を目途に、低地部に集中する雨水量を低減するための流下方向の見直しや、能力不足を解消するための雨水管の設置など、当該地区の効果的な浸水対策について、幅広く検討していくとの答弁がありました。

最後に、上下水道管理者に意見と要望を述べました。地理的な特性として、武蔵野南貨物線JR貨物梶ヶ谷ターミナルが、矢上川への雨水流出の障壁となることで、線路下をクロスする下水管に雨水が集中する構造になっています。平成24年度予算では、浸水対策事業費として調査費と工事費を含んだ24億7991万円を計上しています。流下方向の見直しなど浸水対策を検討することです。既存道路、側溝の一部に能力不足が分かっている以上、早期に対策をとり、改善を図って頂くよう述べました。(詳しくは石田ホームページで)

山地域の浸水被害抑止に、期待されているところであります。

川崎市はこれまでの浸水対策として、宮前区の各所において対策をとってきました。宮前区梶ヶ谷金山地区については、ゲリラ豪雨時等に道路冠水が頻繁に発生している状況にあります。そこでこれまでの浸水の発生要因と対策について訊ね